

令和 6 年度第 1 回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和 6 年 5 月 1 0 日（金）午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 3 0 分
場 所	羽島市役所 3 0 1 会議室
出 席 者	（社会教育委員）出席者 8 人 花村 伸二 委員（小中学校長会代表） 松尾 東彦 委員（子ども会育成協議会代表） 白木 幸子 委員（羽島中央生活学校代表） 坂田田壽子 委員（文化協会代表） 渡邊 修 委員（コミュニティセンター館長会代表） 小森 博昭 委員（スポーツ推進会議代表） 高砂 房子 委員（学識経験者） 二村 玲衣 委員（学識経験者） （事務局） 岩田 睦巳（生涯学習課長） 柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長） 大橋 寛子（生涯学習課主幹） 吉田 智紀（同課係長） 杉山 大祐（同課主事）
内 容	1 開会 ・資料確認 ・会議開催成立の報告 ・会議公開及び傍聴の有無の報告 ・委員長あいさつ 2 議事 (1) 各種委員の選出について 事務局案を踏まえ、以下の通り選出 ・岐阜県社会教育委員連絡協議会評議員：松尾東彦 委員 ・岐阜地区社会教育振興協議会委員：白木幸子 委員 ・羽島市生涯学習都市推進会議委員：坂田田壽子 委員 ・羽島市歴史民俗資料館運営協議会委員：渡邊修 委員 ・わたしの主張 2 0 2 4 羽島市大会審査員：高砂房子 委員 (2) 社会教育関係団体への補助金交付について 資料に基づき事務局から各団体への補助金内容を説明 (委員) 文化協会補助金について、令和 6 年度は減額という説明があったが、資料を見ると 5 年度より増えている。

(事務局)

資料に記載の令和5年度補助額は実績額である。予定額としては5年度と比べて6年度は減額となっている。

(委員)

県文化財保護費補助金として山車の修理費があるということだが、令和5年度と比べてこんなに額が違うのか。

(事務局)

市の補助額は、年度ごとに修繕する内容が違ったり県補助金の採択結果によって変動するため、年度によって大きく異なる。

(委員)

地域文化振興補助金も、令和5年度実績額と6年度予定額で差があるが、余裕をもって見込んでいるということか。

(事務局)

令和6年度は5年度と同規模の予定額を見込んでいるが、5年度は最終的に使用を見込んでいた団体が補助金を使用しなかったことで、実績額が予定額より減少した。

(委員)

子ども会が減っているが、加入状況や活動状況はどうか。

(事務局)

令和5年度は子ども会の数が106、会員数は2,529人、加入率は2年度で87.0%、新型コロナ後の5年度で76.6%となっている。地域によって差はあるが、自治会も同じような加入率である。市外から移住してくる方もいるが、人口が増えても子ども会への加入率が上がるわけではないと分析している。

(委員)

福寿地区は子どもが増えているので、子ども会に参加いただける方策を考えてほしい。

(委員)

福寿地区は外国籍の子どもが増えているが、近年スマホが普及しており、わざわざ地域で集まって活動しなくてもスマホ内のコ

コミュニティで活動すれば良いという考えになっていると感じる。本来子ども会を通じて社会性を身につけることはとても大切なことだと考えている。

(事務局)

中島地区では子ども会の加入率は99%である。子どもだけでなく親どうしが顔を合わせ交流することも重要であるので、そのような活動ができるようつながりの大切さを伝えていきたい。

(委員)

今後さらに会員が減ってくれば、地区をまたいで合同で行うことも一つの手と考えられる。また皆さんにご指導いただきたい。

(3) 各課・館の「事業計画」について

生涯学習課(中央公民館を含む)・スポーツ推進課・図書館資料に基づき事務局から事業計画の説明

(委員)

情報誌「学びEye はしま」の発行が8月では遅いので、もう少し早くしてほしい。

また、図書館の実施事業計画で、コミュニティセンターと協調して行う活動があれば教えてほしい。

(事務局)

「学びEye はしま」については、コミュニティセンター等各団体の講座内容が6月頃にならないとまとまらないという意見もあり、それから発行しているため8月となっている。大きく時期を早めることは難しいが、少しでも早くできるよう努める。

図書館事業において、コミュニティセンターへの団体貸出という形で地域の子どもがより多く図書に触れていただくという取り組みを推進していきたい。さらに、図書館だよりの中で新刊情報を載せていく。併せて電子書籍についても、市内どこでも読書ができる体制を推進していきたい。

(委員)

以前に年2回発行していたときは6月にできていた。私もエルボランティアの取り組みを行っているが、和菓子づくりや和太鼓、工作など夏休みを利用した親子体験がメインである。8月に

発行しては活用ができない。以前は早くに発行できていたのだから、呼びかければ各団体もそれに合わせてくれると思う。

(委員)

文化協会も高齢化が進んでおり、後継者育成がおろそかになっていると感じる。どの世代にアプローチするかも重要であり、読み聞かせを例に挙げれば、在宅率の高い0から2歳児の親をターゲットにして人とかかわり支え合う良さを伝えていく必要がある。現在、親子参加での養成講座をお願いしているところであり、社会情勢や経済情勢をよく見て後継者を育成していきたい。

スポーツについても中学校の部活動が以前とは大きく変わってきていると思うが、現状はどうか。

(事務局)

岐阜県や羽島市としては、土曜日と日曜日の部活動は学校から地域に移管し、スポーツを地域で支えていくことを推進している。学校だけでなく地域もかかわって、子どもがスポーツできる機会をつくっていきたい。

(委員)

休日の部活動を地域移管した影響かどうか分からないが、今年の中学1年生のスポーツクラブ加入率が50%と大きく落ち込んでいる。動向を注視していきたい。

(委員)

費用対効果の面で、クラブに入ると費用がかさむため親は躊躇しているのではないか。

(委員)

それほど費用はかからないと思うが、親も「何でも学校が無料でやってくれる」という考え方を変えないといけないのかもしれない。受益者負担もある程度必要である。

(委員)

受益者負担はあってしかるべきと考える。

(委員)

電子書籍の利用状況について、教えてほしい。

(事務局)

一昨年は電子書籍で約 10,000 冊の貸出があった。昨年は市内小中学生が自身のタブレットで電子書籍を借りられる環境を整備した結果、市内小中学生だけで計 78,000 冊の貸出と大きく伸びた。これからも推進していきたい。

3 その他

令和 6 年度社会教育推進審議会及び各種研修会等について、事務局より審議会及び各種研修会等の日時・会場等を資料に基づき説明

4 閉会

以上